

# 平成27年度 総合的な学習の時間にかかわる現状と課題

部長 尾崎 章

## 1 総合的な学習の時間の動向

今年度は15地区から活動報告が寄せられた。各地区が創意工夫し、講演会(7地区)、授業研究会(7地区)、地域巡検(4地区)、地区教育センターと連携した研修(2地区)、体験・実技研修(2地区)、実践レポート研修会(2地区)と多様な研修が取り組まれた。学習指導要領の趣旨を踏まえて、総合的な学習の時間の充実を図るために、地域や実践に学ぶこと、協同的で探究的な学習の在り方を考えること等をテーマに取り組まれてきたことが伺える。

### (1) ふるさとへの愛着や誇りを育むため、地域素材の教材化や地域施設の利用

- 五泉市では、「水環境」を題材に地域巡検と授業研究を通して、地域の自然のよさを見つけ、ふるさとへの愛着と誇りを育てる総合的な学習の教材開発について研修を深めた。
- 新発田市では、地元の川を生活、歴史、水質を課題に探究する研究授業や地元食材で省エネでゴミを出さないエコな調理実習を通して地域素材の教材化について研修した。
- 柏崎・刈羽では、地域の特色を生かした総合的な学習の時間が推進されるように教育センターの研修講座と連携した研修や中学校区単位での実践レポート研修を実施した。
- 村上市では、現地巡検を通して、地域素材「蚕」の教材化を考えたり、地元食材を使った調理活動を通して、「郷土料理」の教材化を図ったりする研修を進めた。
- 佐渡市では、研究授業「米作りから学ぶ朱鷺と共生する島」を基に、佐渡の自然・文化・歴史を学び、郷土を愛し、夢と誇りをもつ子どもの育成を目指す「佐渡学」を深めた。
- 三条市では、地元企業のオープンファクトリーの見学を通して、利器工具の産地である三条のものづくりを学ぶ。地域素材の教材化や子どものもの作り学習の参考になった。

### (2) 主体的で探究的な学習や協同的な学習を指向した取組

- 燕・西蒲では、講演会と授業研究会を通して、協働的で探究的な学習になるための授業作りのポイントや指導計画の中に探究のスパイラルの様相を位置付けることを学んだ。
- 十日町・中魚では、汎用的能力を育成するアクティブ・ラーニングを可能にする授業はどのようなものか、講演会とグループ討議を通して研修を深めた。
- 妙高市では、春日小学校の全国生活科・総合的な学習教育研究協議会の実践発表と講演を基に、子どもの探究的な学びが連続・発展する単元構想や授業づくりについて学んだ。
- 上越市では、講演会と意見交換を通して、これからの時代求められる資質・能力を明らかにし、総合的な学習の授業作りやアクティブ・ラーニングについて研修を深めた。
- 長岡・三島では、脇野町小学校の研究発表会に協力し、授業研究と講演会を通して、自ら学ぶ子どもを育成するための教師の手立て、アクティブ・ラーニングの本質を学び、主体的で協同的な活動を進める総合的な学習の時間について研修を深めた。

### (3) 思考力・判断力・表現力を高めるための言語活動の充実と指向ツールの活用

- 見附市では、「総合的な学習の時間における発表・発信力の展開と方策」をテーマに、講演と演習を通して、子どもの思いを生かした発表や発信を実践するための展開や方策、ICT活用を学ぶ研修を進めた。
- 魚沼市では、授業研究会を通して、クラゲチャートやピラミッドシート等の思考ツールを活用し、子どもの思考を導き出し、分かりやすいまとめ方について研修を深めた。
- 南魚沼市では、学習指導センターとの共催研究会を通して、題材・テーマの決め方、活動のまとめ方等の総合的な学習の時間のポイントや課題について研修した。
- 新潟市では、授業研究会を通して、今、求められる力を子どもに高める総合的な学習の時間の展開について、評価の在り方を明らかにしながら研修を深めた。

## 2 総合的な学習の時間の課題

- 総合的な学習の時間の学びが「ふるさとへの愛着と誇り」「探究的な学習」に確かにつながり段階的に高められるためには、9年間を見通した地域の特色を生かしたカリキュラム構成など中学校区の積極的な連携による研究推進が必要となる。
- 子どもたちが主体的に協同的に探究的に取り組む総合的な学習の時間を展開するための手立てについての研究を大事する。特に、今年度新たに幾つかの地区で取り組まれたアクティブ・ラーニングについての研究や実践が深められることを期待する。